

米国の401(k)関連システム

梅屋真一郎

わが国でも、2000年度をめどに、確定拠出型年金の導入が確実視されている。システム対応がこの種の年金ビジネスの鍵となっているため、システム化の判断が重要視されている。本稿では確定拠出型年金の先駆である401(k)プランを導入した米国のシステム動向をもとに、重要となる関連システムについて述べる。

■ 401(k)関連システムの全体構成

米国における401(k)プラン関係のシステムおよび関連機関の全体的な構成は図1に示したとおりである。図中で、楕円でくくった部分が401(k)関連のシステムである。それぞれ、関連する次の5つの機関に属している。

年金アドミニストレーション
(管理)業者
プランスポンサー(企業)または代行業者
金融機関
信託銀行
ネットワーク提供者

■ 5つの機関とその401(k)関連業務

(1) 年金アドミニストレーション業者

年金アドミニストレーションは狭義のレコードキーピング(登録)

業務であり、年金の口座管理を従業員単位で行う。

本来は、年金プランを管理する企業側の業務であるが、現在ではアウトソーシングが大勢を占めている。次のようなサービスを提供している。

年金口座管理
従業員向け各種報告書の作成と送付
企業・当局向け各種報告書の作成

(2) プランスポンサー(企業)または代行業者

プランスポンサーの業務は、自社従業員に対してサービスを提供することである。なお、確定拠出型年金は、その運用責任は個々の従業員が負うが、企業が提供する福利厚生の一環とも位置づけられている。

このため経営戦略上、投資教育を含めた各種のサービスを従業員

に提供する企業が増えている。提供するサービスには、次のようなものがある。

投資教育・トレーニング
資産運用プランニング
運用状況の問い合わせ対応
運用指示への対応

金融機関なども年金プラン提供の際に、このような従業員向けサービスを代行している。このサービスの代行方法が、金融機関側からみた大きな差別化要因となっている。

代行業者が業務を行う場合には、広範囲のサービスを多数の企業従業員に提供するため、システムによる省力化が重視され、集中コールセンターやIVR(音声自動応答)などが採用されている。

インターネットやイントラネットでのサービス提供も急増している。企業向け代行業者の約7割が、インターネットによるサービスを

